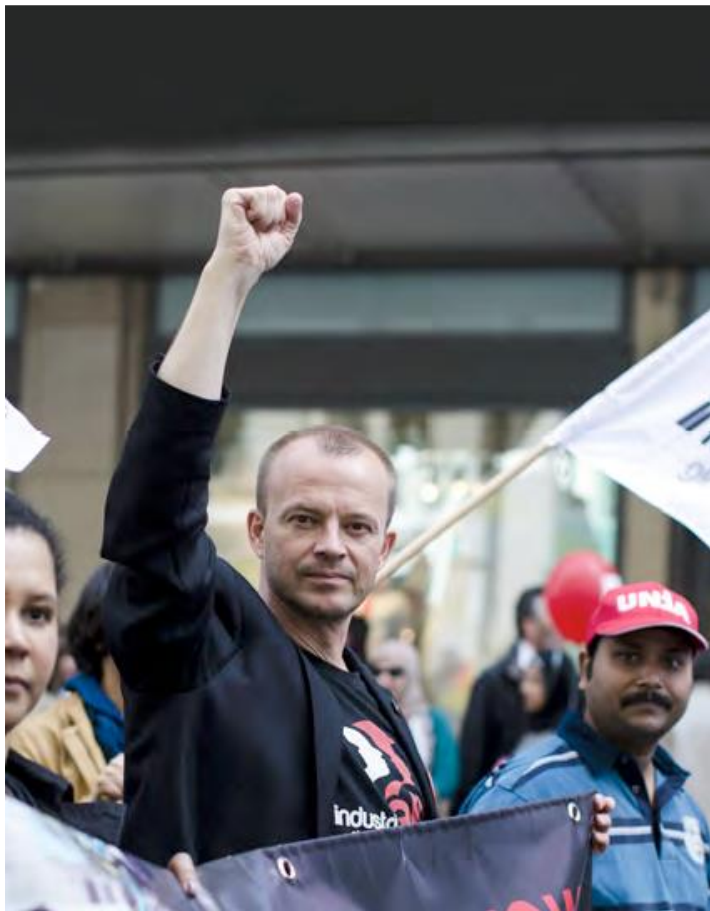


グローバル・ワーカーへようこそ



ユルキ・ライナ書記長

「あまりにも多くの企業と政府が、公平や社会的公正を求める労働者の行動に盛んに反対している」

ネットワークと GFA を通じた力の強化

自動車産業の組合ネットワークと、衣料大手インディテックスとのグローバル枠組み協定は、何百万人もの労働者の組合権を守るうえで役立っている。

インダストリアル・グローバルユニオンのアクション・プランは、グローバル・レベルの企業別キャンペーンをはじめとする連帯や共同行動のために、ネットワークで労働者を団結させることによって、真の組合の力を構築することを義務づけている。このプランは、多国籍企業とのグローバル枠組み協定 (GFA) の増加と、使用者公認の世界従業員代表委員会を要求している。

自動車産業の組合は、この戦略の最前線に立ってきた。『グローバル・ワーカー』本号では、1960 年代後半に最初の組合ネットワークが設立された自動車部門の展開を取り上げる。

現在、ドイツ、フランス、アメリカおよび日本の大手自動車会社数社で、グローバル組合ネットワークが活動している。フォルクスワーゲン、GM、フォード、プジョーシトロエン、ルノー、ダイムラー、BMW、ボルボ、ポッシュでは、経営側がネットワークや世界従業員代表委員会を承認し、定期会合の費用を負担している。

全米自動車労組 (UAW) 会長でインダストリアル自動車部会共同部会長のボブ・キングが指摘するように、組合は新しい革新的な方法で連帯を構築している。日本、ブラジル、南アフリカなど多くの国々のインダストリアル加盟組織が、ミシシッピ州の日産で UAW の組織化活動を支援している。

ベルトホルト・フーバー・インダストリアル会長は、サプライチェーン全体で労働者の権利を確保するうえでグローバル枠組み協定が果たす役割を強調している。特にサプライヤーと下請会社で組合権の侵害が目立つ。

このような理由で、インディテックスとの GFA は実に画期的だ。このスペイン系衣料大手はほとんど製造活動を行っていないが、同社のサプライヤーは中国、バングラデシュ、ブラジルなど多くの国々で 100 万人の労働者を雇用しており、全員が GFA の対象となっている。

特集では、どのように GFA が文書から生きた現実になっているかを紹介する。トルコとカンボジアで、解雇された労働者数百人を何とか復職させた。インディテックスとインダストリアルは、トルコのパイロット・プロジェクトで協力し、組合代表と管理者を訓練している。今後は、専任コーディネーターの支援を受けて、バングラデシュ、カンボジア、インド、中国に訓練を広げていく。

インダストリアルはネットワークと GFA によって、組織化と成長に適した条件を作り、労働者の賃金・労働条件改善に役立つ組合の力を強化したいと考えている。したがって、結社の自由を確保することが欠かせない。

この『グローバル・ワーカー』を読めば分かるように、組合は活動できるすべての場所において、適正な収入と社会的保護の両面で人々のために成果を上げている。インダストリアル加盟組織は、インドネシアの継続的な最低賃金引き上げと国民皆健康保険・年金、カンボジアの生活賃金、旧ソ連諸国の基本的権利を求めて結集している。

あまりにも多くの企業と政府が、公平や社会的公正を求める労働者の行動に盛んに反対している。だから、これからも闘いは続く。

書記長 ユルキ・ライナ